

第124回 学長定例記者会見

日時：令和2年8月27日（木）11：00～11：30

場所：広島大学 東広島キャンパス 法人本部棟2階 2F 会議室

※ テレビ会議システムにより、記者会見の様子を同時配信

受信場所：東千田キャンパス 東千田未来創生センター 4-1

※ YouTubeによる録画配信を実施

【発表事項】

1. 令和2年10月に広島大学国際交流拠点施設の建設工事に着手  
～ 「国際的研究拠点東広島」の形成に向けた環境整備 ～
  
2. 世界初の角筆資料室を中央図書館に設置しました

【お知らせ事項】

1. 広島大学 2017年度採択 世界展開力強化事業タイプA（インド）「先端技術を社会実装するイノベーション人材養成のための国際リンケージ型学位プログラム」  
第1回学生ワークショップ Technologies for the Future を9/25（金）にオンライン開催します

■次回の学長定例記者会見（予定）

日時：令和2年9月下旬

場所：広島大学 霞キャンパス

令和 2 年 8 月 27 日

令和 2 年 10 月に広島大学国際交流拠点施設の建設工事に着手  
 ～「国際的研究拠点東広島」の形成に向けた環境整備～

広島大学は、東広島キャンパスにおける国際的研究拠点東広島の形成に向けて、イノベーション創出、内外の多様な人々の交流と知識の循環、海外のトップ研究者や優れた留学生に対する安全で快適な居住空間の提供など複合的な機能を持つ「国際交流拠点施設」の整備事業を進めてきました。

このたび、令和元年9月策定の整備基本計画を基にした設計業務が完了しました。今後は令和3年秋の開設を目指して、本年10月建設工事に着工します。

本施設は、「緑で紡ぐ交流の丘」を設計コンセプトとし、誰もが親しむ自然豊かな環境に呼応して、既存の並木や丘、小道などを継承する配置計画とセルが積み重なる有機的な建物形状で、持続可能社会を体現するシンボリックな外観デザインとしています。

また、1階・2階はエントランスを中心として、開放的でフレキシブルに使える多目的スペースやコミュニティキッチンなど多彩な交流空間、イノベーション創出空間を持つとともに、3階以上の宿舍スペースでは入居者同士の交流を促進する交流ラウンジなどを配置し、区分を明確にしつつ交流を図る設えとなっています。7階には内外からトップクラスの研究者を呼び込むため居室を整備したことも特徴の一つです。

なお、建物全体が、バリアフリーに配慮したものとなっています。

#### ○施設の概要

- (1) 開設予定  
2021年（令和3年）秋
- (2) 建物規模  
建鉄筋コンクリート造  
（一部鉄骨造）7階  
建築面積 973㎡  
延床面積 3,954㎡
- (3) 全体事業費  
約15億円  
（大学自己資金10億円、  
東広島市支援 5億円）
- (4) 機能  
①イノベーション創出機能、②交流拠点機能、③宿舍・生活機能
- (5) 機能の配置  
1・2階 多目的スペース、コミュニティキッチン、カフェ、オフィス、会議室など  
3～7階 宿舍（68室 うちバリアフリー居室3室）、交流ラウンジなど



国際交流拠点施設 完成予想図

## (6) その他

ネーミングライツなどについても検討する。

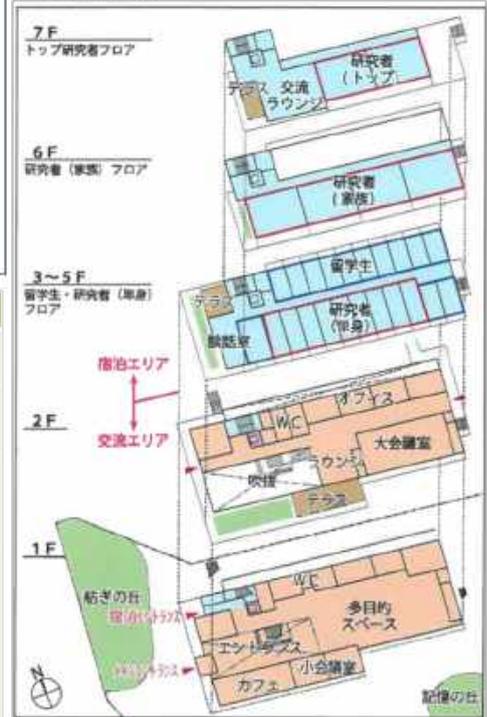
### 【施設の概要】

#### ■施設整備の概要

- 開設予定 2021年(令和3年)秋
- 7階建 鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)
- 建築面積 973㎡
- 延床面積 3,954㎡
- 全体事業費 約15億円
- 事業手法 設計・施工一括発注方式
- 設計業者 株式会社あい設計
- 工事業者 株式会社鴻池組

多目的スペース(234.1㎡)	
カフェ(59.9㎡)	
大会議室(121.6㎡)	
留学生用居室(16.7㎡)	34室
留学生等バリアフリー居室(33.5㎡)	3室
単身研究者用居室(22.9㎡)	25室
家族研究者用居室(66.4㎡)	4室
トップ研究者用居室(69.3㎡)	2室
計	68室

#### ■整備の内容



項目	内容	備考
施設の用途	国際交流拠点施設	
建設用地	東広島市鏡山 広島大学東広島キャンパス	大学会館東側
主要機能	①イノベーション創出機能 ②交流拠点機能 ③宿舎機能(宿泊施設68室)	
諸室	1階 多目的スペース、管理事務室 カフェ、小会議室、コミュニティー キッチン等 2階 大会議室、オフィス、小会議室等 3階~7階 宿泊室、交流ラウンジ	

### 【施設内のイメージ図】



1階 エントランス



7階 トップ研究者居室



1階 多目的スペース



2階 ラウンジ

### 【お問い合わせ先】

学術・社会連携室 地域連携部門 三戸  
TEL:082-424-5871



# 国際交流拠点施設整備の概要

Hiroshima University

- ◇実施設計完了:令和2年 8月25日
- ◇着工予定:令和2年10月上旬
- ◇竣工予定:令和3年 9月末



令和2年8月 広島大学 学術・社会連携室

東広島キャンパス

# 施設の外観 鳥瞰パース

Hiroshima University



「緑で紡ぐ交流の丘」を設計コンセプトとし、誰もが親しむ自然豊かな環境に呼応して、既存の並木や丘、小道などを継承する配置計画とセルが積み重なる有機的な建物形状で、持続可能な社会を体現するシンボリックな外観デザインとしている。

# 国際交流拠点施設整備の概要

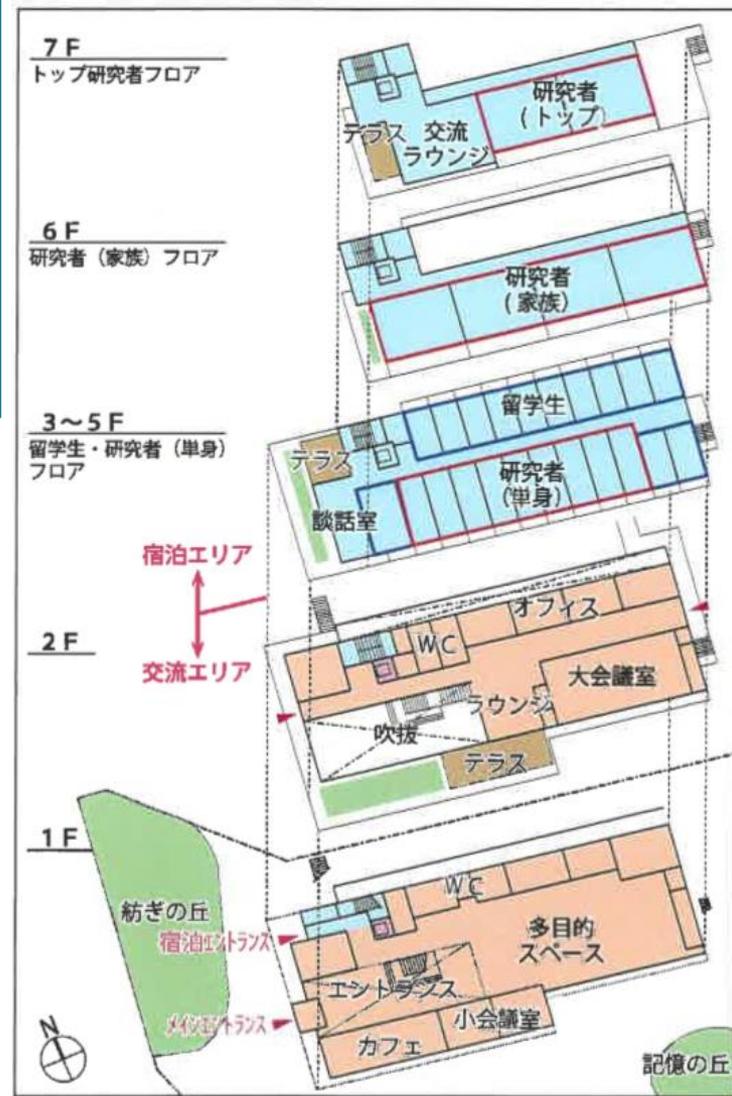
Hiroshima University

## ■施設整備の概要

- 開設予定 2021年(令和3年)秋
- 7階建 鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)
- 建築面積 973㎡
- 延床面積 3,954㎡
- 全体事業費 約15億円
- 事業手法 設計・施工一括発注方式
- 設計業者 株式会社あい設計
- 工事業者 株式会社鴻池組

多目的スペース(234.1㎡)	
カフェ(59.9㎡)	
大会議室(121.6㎡)	
留学生用居室(16.7㎡)	34室
留学生等バリアーフリー居室(33.5㎡)	3室
単身研究者用居室(22.9㎡)	25室
家族研究者用居室(66.4㎡)	4室
トップ研究者用居室(69.3㎡)	2室
計	68室

## ■整備の内容



項目	内容	備考
施設の用途	国際交流拠点施設	
建設用地	東広島市鏡山 広島大学東広島キャンパス	大学会館東側
主要機能	①イノベーション創出機能 ②交流拠点機能 ③宿舎機能(宿泊施設68室)	
諸室	1階 多目的スペース、管理事務室 カフェ、小会議室、コミュニティー キッチン等 2階 大会議室、オフィス、小会議室等 3階~7階 宿泊室、交流ラウンジ	

# 整備地(東図書館、大学会館との連携)



本施設は、海外からの研究者や留学生に安全で快適な生活環境を提供するとともに、「知の拠点」として、それらの人々や企業技術者、起業家、市民などとの交流により、知識の循環を育む。また、広島大学の東広島市におけるイノベーション・ハブとして、イノベーション創出機能を最大限に発揮することを目指し、教員、学生、市民にも親しまれ、誰もが気軽に利用・参加する賑わいあふれる施設にしていく。

## 多様な人々の交流による賑わいづくりと「知識の循環」

- ◆グローバル展開により、海外からトップ研究者や留学生を呼び込み、様々な交流で、地域の「知の拠点」として知識の循環を育み、同時に、地域に根ざした事業展開を図り、地域の国際化の推進、地域活性化に取り組む。

## イノベーション・ハブによる新事業の創出など

- ◆本施設は、世界と結ぶグローバルイノベーションの連結点(ハブ)として、様々な立場・職種の人々がアイデアやシーズを生み、それをセミナーやワークショップなどにより具体化していき、新事業につなげていく運営を行うこととする。

## 安全で快適な空間(交流・居住施設)の提供

- ◆海外のトップ研究者や優れた留学生を呼び込むためには、一定レベル以上の快適で安全な宿舎の確保とともに、生活情報の提供、文化機能、交流機能の充実が必要であり、積極的な運営活動を展開する。

## 周辺施設との連携による効果的な管理運営

- ◆周辺施設について、東図書館はラーニング・コモンズやセミナー室など、学習・集会機能を有し、大学会館は、食堂や売店、集会室など、生活・集会機能を有している。両施設との連携を図り、この一帯の賑わい創出機能を高めていくこととする。

## 1 景観や地域環境に配慮した施設

- ① 広島大学のグローバル展開を象徴する建築物として、特徴のある外観とする。
- ② 周辺の景観と調和する外観デザイン及び色彩の施設とする。
- ③ 周辺の建物との関係に最大限配慮した配置計画とする。
- ④ 整備候補地はサブの交通結節点に隣接しており、その機能との連携を図る。

## 2 内外の研究者や学生、市民などが集まりやすい施設

- ① 1階部分をガラス張りとし、中での施設活用の様子が外から見える構造とする。
- ② 多目的スペースは、用途を固定することなく、セミナーや交流会など自由な使い方ができる施設とする。カフェ、ラウンジなどを設け、利用しやすい施設とする。

## 3 外国人研究者や留学生等が生活しやすく、使いやすい施設

- ① 機能的な諸室の配置とする。
- ② ユニバーサルデザインを取り入れ、バリアフリーに配慮するなど、使いやすい施設、環境とする。
- ③ 研究者及び留学生等の混在型宿舎とするが、管理が容易な計画とする。
- ④ 入居者間の日常的な交流を促進する施設及び環境とする。
- ⑤ 個室の居住環境、プライバシーに配慮した計画とする。
- ⑥ 外国人研究者や留学生が、日本での生活に安らぎと親しみを覚え、生活経験が良い思い出として残るような施設、環境とする。
- ⑦ 外国人研究者や留学生が居住するに当たって、分かりやすく案内性のよい空間構成、適切な案内板やサインの設置により、円滑な移動や利用を促す計画とする。
- ⑧ 大学が用意するネットワークシステムに対して、容易に接続できるよう情報通信機器を整備する。

## 4 安全で快適な施設及び環境

- ① 防犯や事故防止等に配慮し、安全な施設及び環境とする。居住エリアは、入退館制御システムを導入することで、許可者以外の立ち入りを制限する。
- ② 火災や自然災害等への対応に配慮した、安全な施設とする。

## 5 維持管理・運営費の軽減に配慮した経済的な施設

- ① 施設の長寿命化、メンテナンス・フリー、光熱水費の削減など維持管理・運営費の軽減に配慮した経済的な施設とする。
- ② 将来のニーズの変化に対応できるフレキシブルな施設とする。

## 6 環境へ配慮した施設づくり

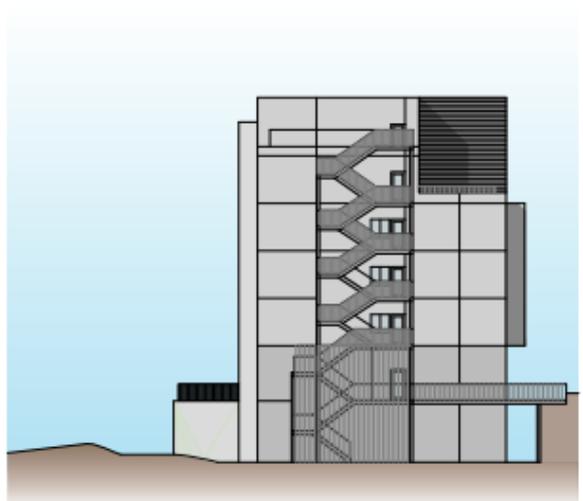
- ① 施設のライフサイクル全体で省エネルギー・省資源に努めるなど地球環境に配慮した施設とする。
- ② 環境への配慮について、具体的な評価が得られる施設とする。

## 7 全体共用部分の整備

- ① 入居者のために、メールボックスコーナー、掲示板等を設置する。
- ② エントランスにはセキュリティを兼ねた風除室を設ける。
- ③ ゴミ集積場は、建物内に設ける。
- ④ 各種の手続き、入居者への対応(日本語及び英語)、来訪者の受付等のため、受付カウンターがあるフロントオフィスを設ける。
- ⑤ 1階、2階には共用のトイレを設ける。

# 国際交流拠点施設の立面図

Hiroshima University



# 施設内のパース

Hiroshima University



1階 エントランス



7階 トップ研究者居室

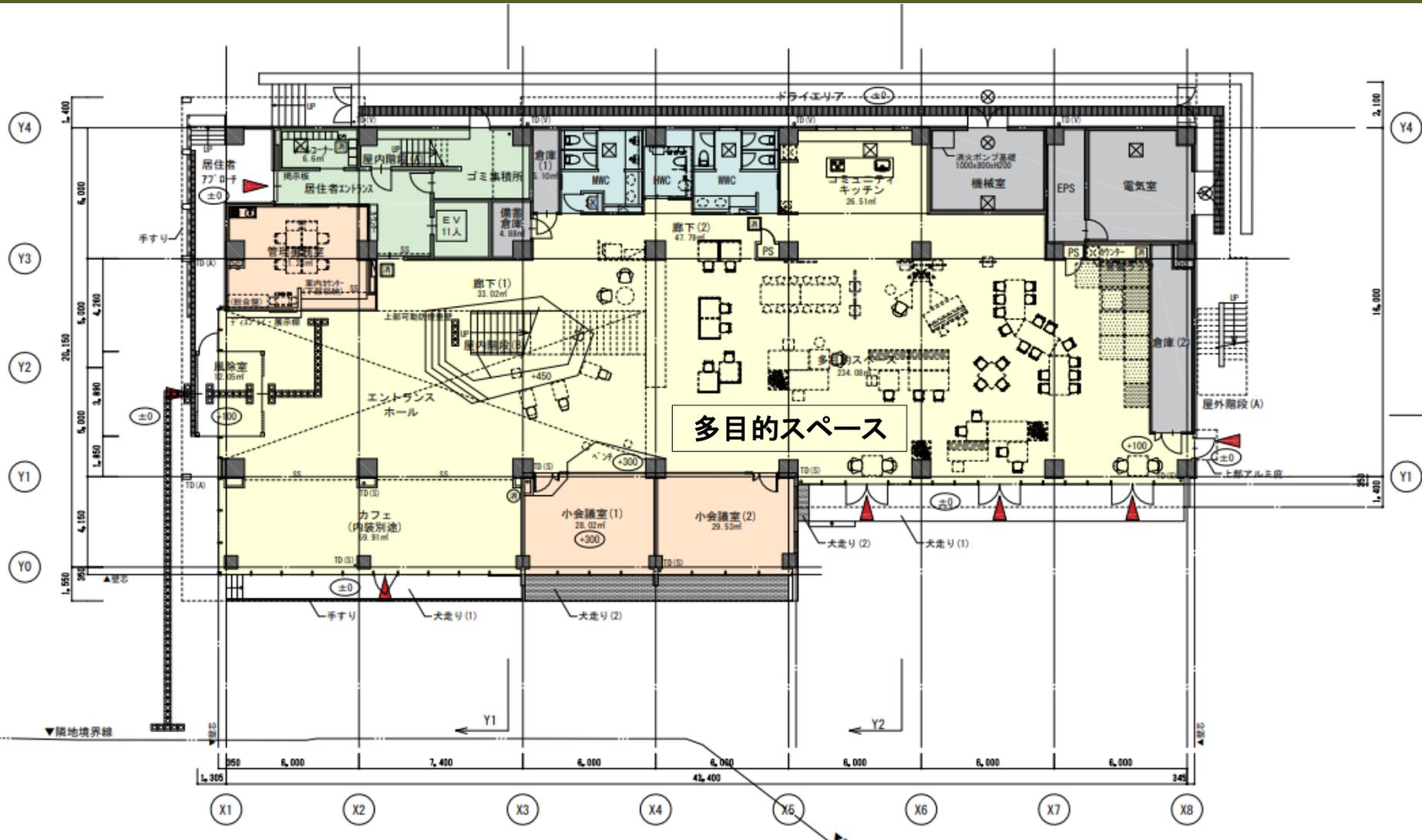


1階 多目的スペース



2階 ラウンジ

# 1階 エントランス、多目的スペース、カフェ (イノベーション・ハブ、コワーキングスペース等)



1階平面図 822.23m<sup>2</sup>

# 1階 オープンスタイルの配置～多目的スペース (イノベーション・ハブ、コワーキングスペース)

Hiroshima University

## ◆多目的スペース・カフェ等は、壁などで遮られない一体的なデザイン

### オープン・イノベーションの場の提供

本施設は、世界と結ぶグローバルイノベーションの連結点(ハブ)として、様々な立場・職種の人々がアイデアやシーズを生み、それをセミナーやワークショップなどにより具体化していき、新事業につなげていく運営を行うこととする。

また、様々な立場の人々が、海外トップ研究者などの新しい知識や視点にも出会うことができる国際交流、知識循環の場とする。

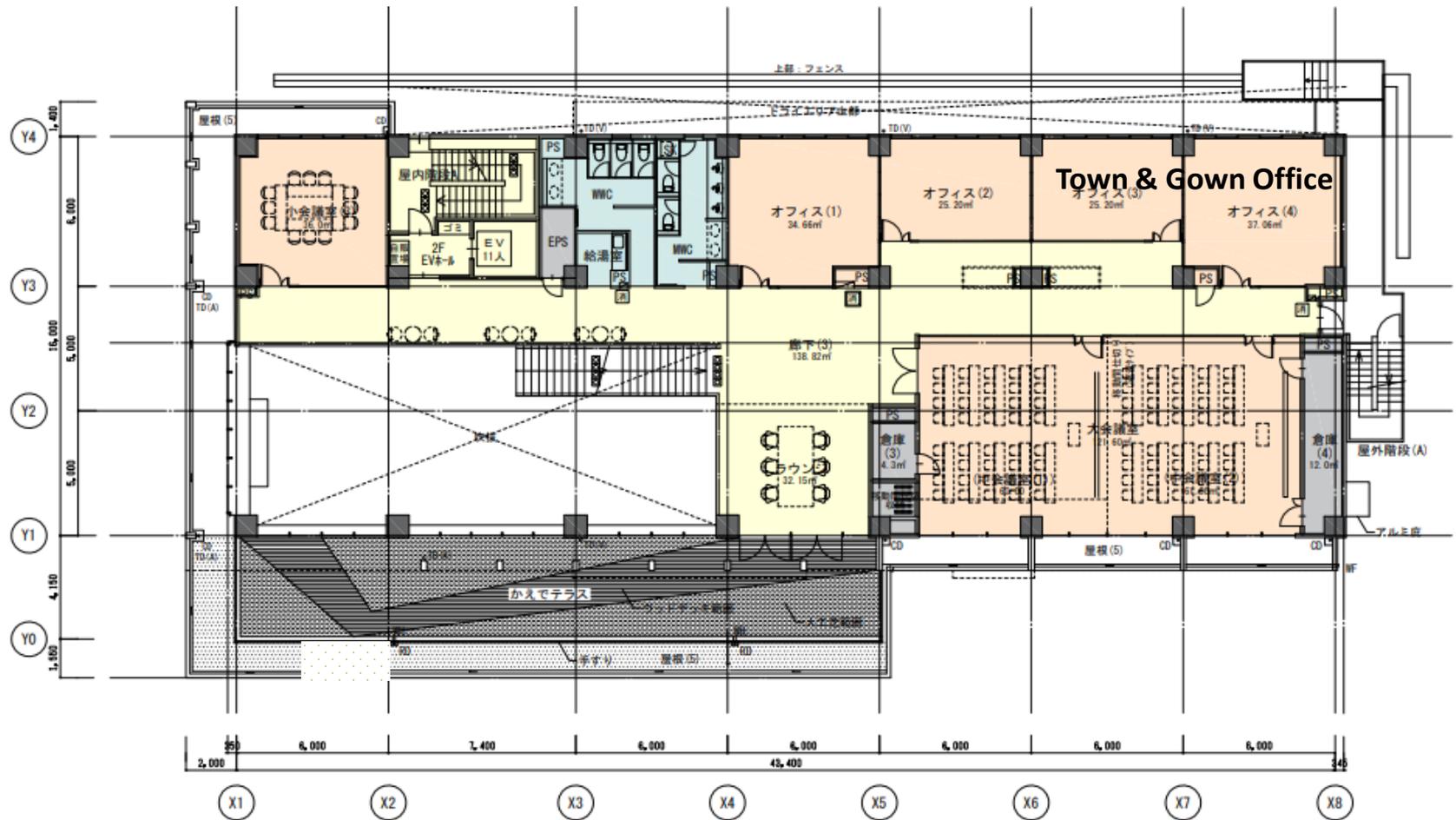
### コワーキングスペースの提供

多目的スペースは、普段コワーキングスペースとなる。ここでは、異なる職業や仕事を持った人たちが同じ場に集まって仕事をし、アイデアやシーズなどの議論をし、交流することができる場とする。多種多様な業種・業界の人たちが様々な交流をすることで、新たなビジネスの創出といった機会を提供することとする。

また、打ち合わせ用のスペースやWi-Fi、電源など、仕事のインフラを用意する。

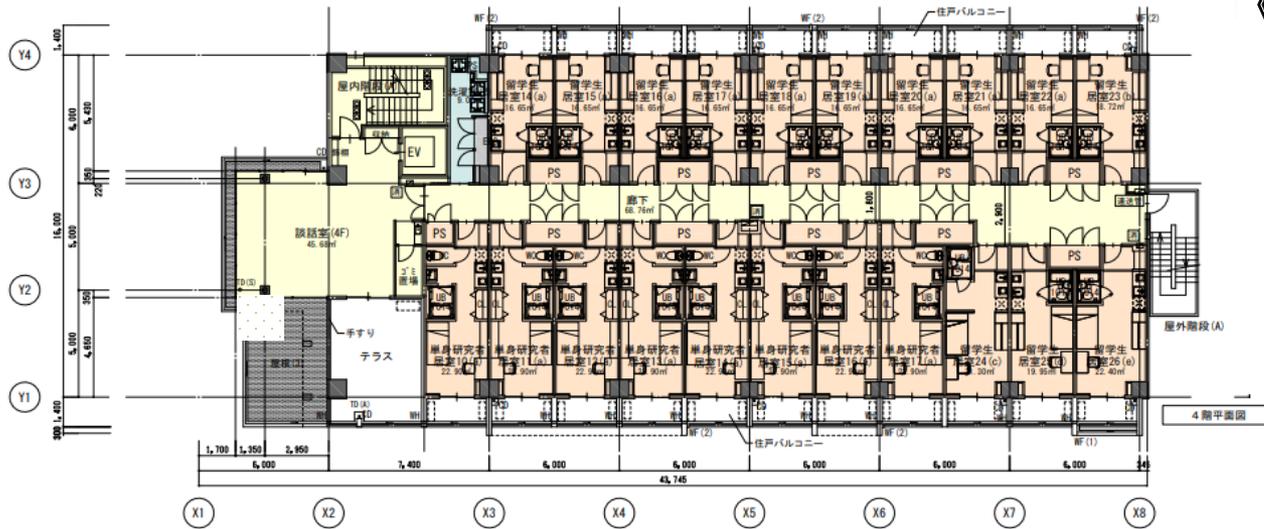


# 2階諸室(大会議室・オフィス等)



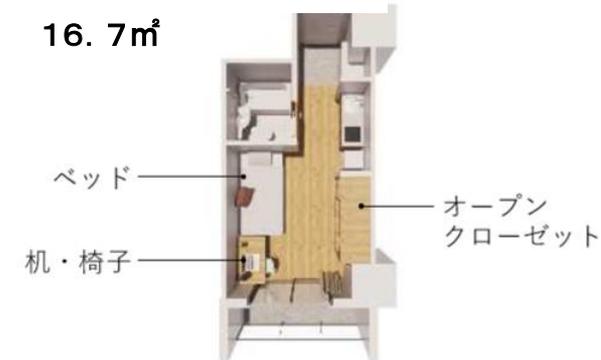
2階平面図 570.75㎡

# 3階・4階 留学生・研究者居室

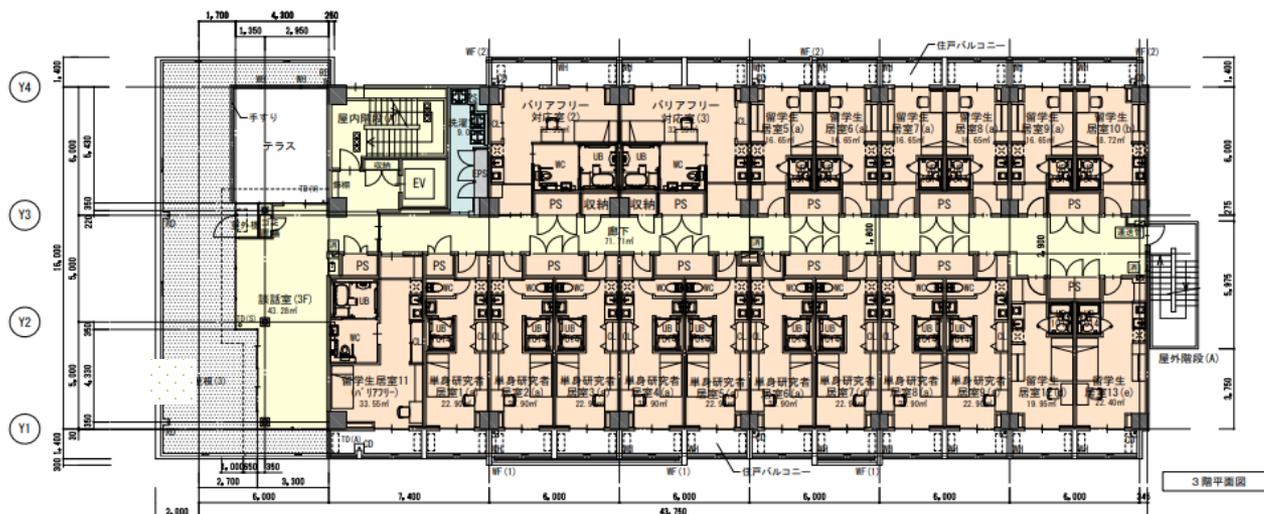


《留学生用居室》

16.7㎡



4階平面図 608.91㎡



《バリアフリー居室》

33.5㎡



3階平面図 644.72㎡

# 5階・6階 留学生・研究者居室

Hiroshima University

## 《家族研究者用居室》

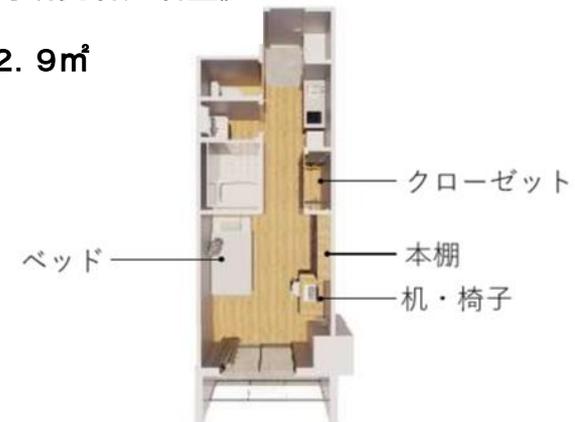
66.4m<sup>2</sup>



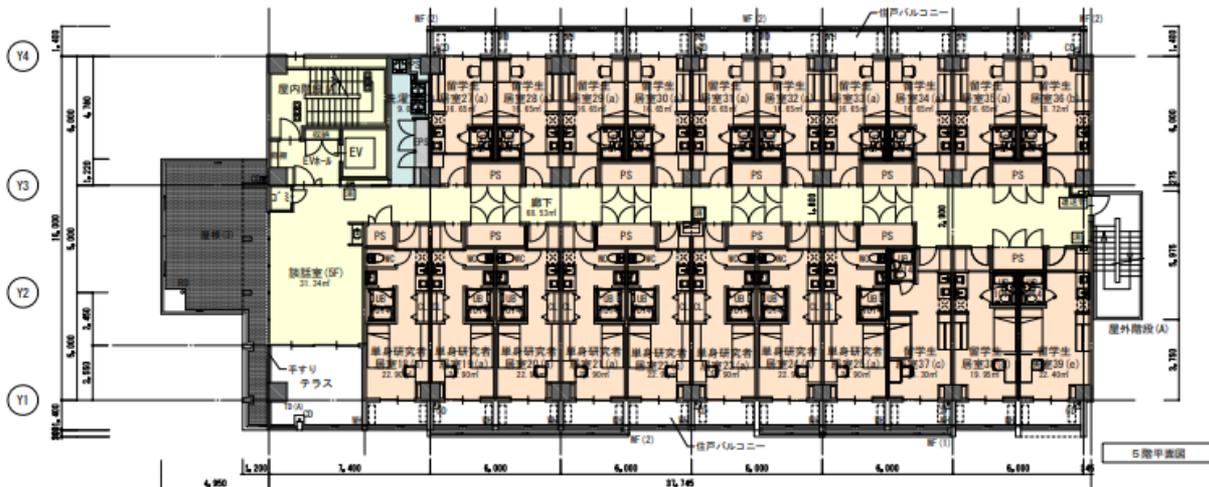
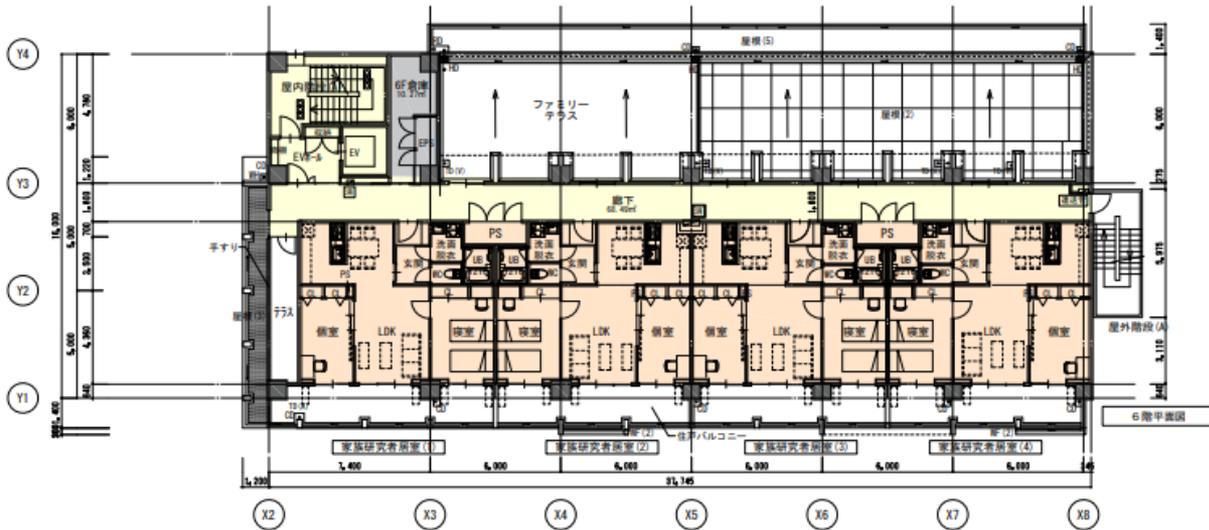
6階平面図 386.49m<sup>2</sup>

## 《单身研究者用居室》

22.9m<sup>2</sup>



5階平面図 592.75m<sup>2</sup>





国際交流拠点施設 外観



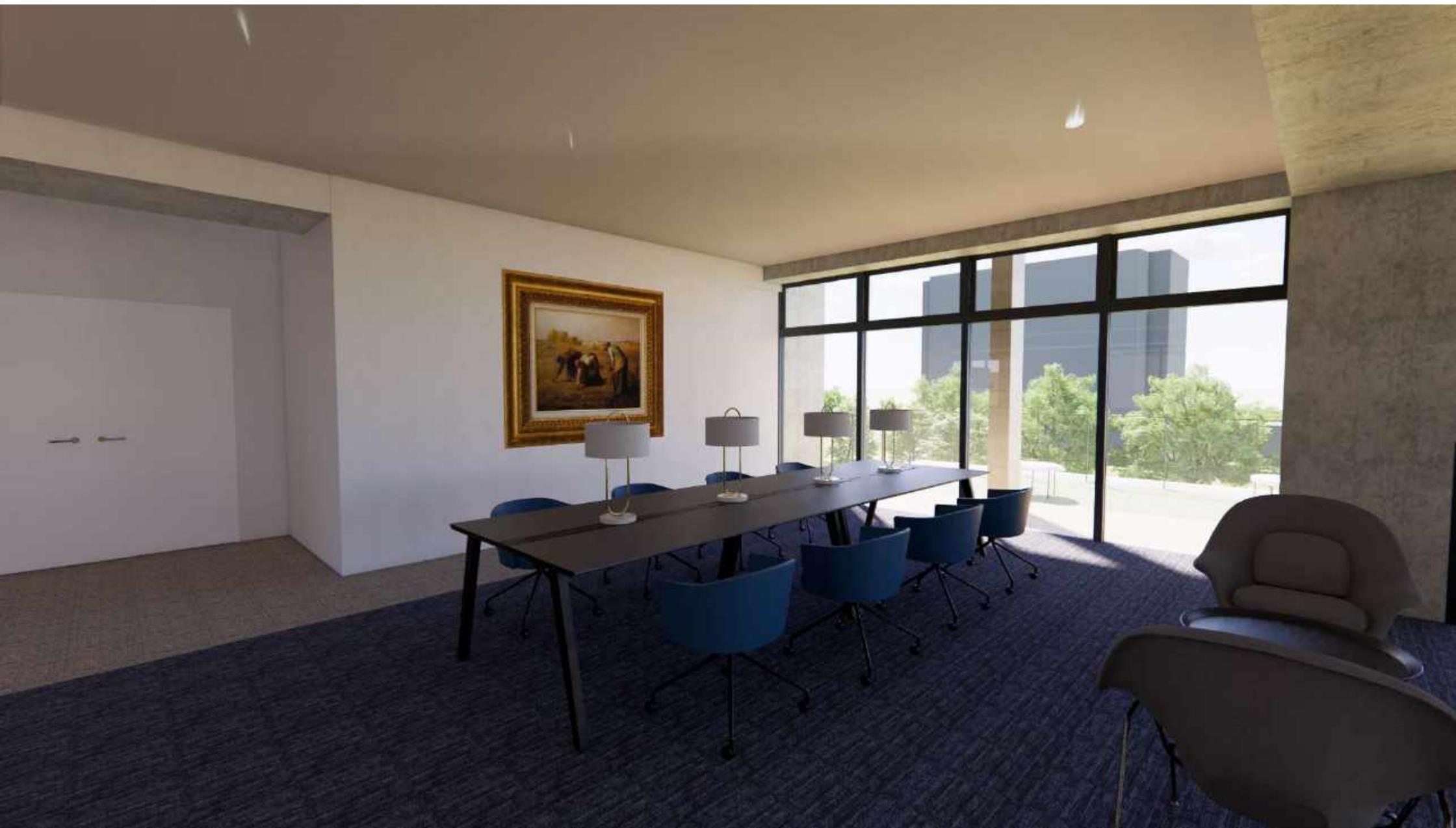
# 国際交流拠点施設 エントランス（1階）



# 国際交流拠点施設 多目的スペース (1階)



国際交流拠点施設 ラウンジ（2階）



国際交流拠点施設 トップ研究者住居LDK（7階）



令和 2 年 8 月 27 日

## 世界初の角筆資料室を中央図書館に設置しました

角筆研究の第一人者で文化功労者に選ばれた小林芳規名誉教授の収集した角筆文献の資料室「小林角筆資料室」が中央図書館に設置されました。角筆文献を集めた資料室は世界で初めてです。

角筆は先端をとがらせた木や竹の筆記具です。小林名誉教授は 1961 年、この角筆を用いてくぼませて描いた字や絵を漢籍資料から初めて発見しました。以来、日本各地や中国、韓国などの古文書から角筆の書入れが確認された文献は国内だけで約 3350 点に上っています。

今回、小林名誉教授が収集された角筆文献を本学にご寄贈いただいたのに併せ、中央図書館の地下一階に資料室を設置しました。角筆文献 293 点 943 冊と共に、角筆の実物や角筆を浮かび上がらせるために考案された「角筆スコープ」などを所蔵しています。

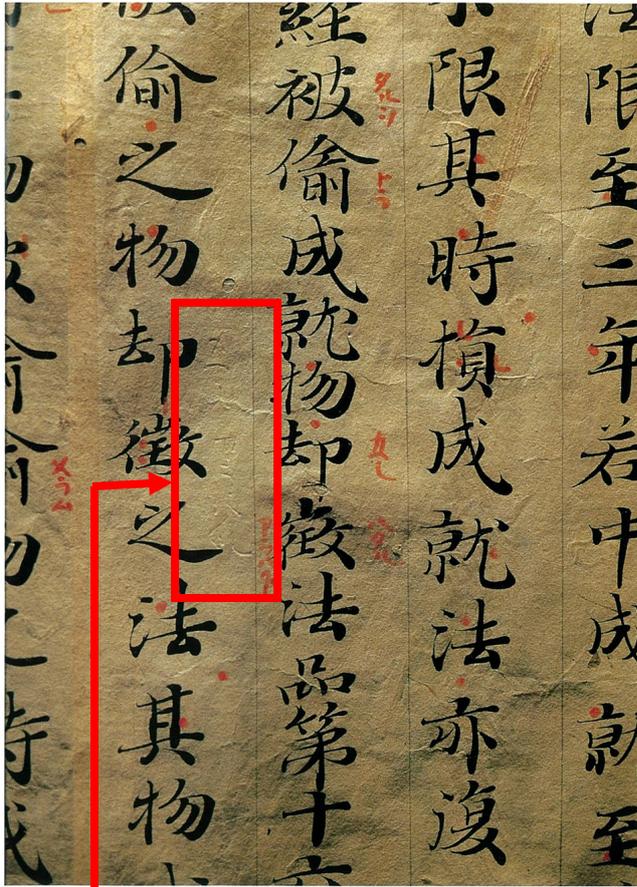
現在、図書館はコロナ感染拡大防止のため学外の方の利用はできませんが、今後は広く世界の研究者に利用していただき、小林先生が切り拓かれた角筆研究を継承・発展させていきたいと願っています。



(小林角筆資料室入り口)



(角筆文献)



④ 蘇悉地羯羅經卷中 廣島大學國語學研究室藏

（右から4行目の中央付近「却徵之」の右横に「カヘシアラハス」の角筆による書き込みがある）

『角筆文献の国語学的研究 研究篇』（小林芳規著；研究篇 -- 汲古書院, 1987）より

【お問い合わせ先】

学術・社会連携室 図書館部 大元  
TEL:082-424-6220

令和 2 年 8 月 27 日

広島大学 2017 年度採択 世界展開力強化事業タイプ A (インド)  
 「先端技術を社会実装するイノベーション人材養成のための国際リンケージ型学位プログラム」  
**第 1 回学生ワークショップ Technologies for the Future を**  
**9/25 (金) にオンライン開催します**

広島大学 2017 年度採択 世界展開力強化事業タイプ A (インド)「先端技術を社会実装するイノベーション人材養成のための国際リンケージ型学位プログラム」は、2020 年 9 月 25 日 (金) に、社会と未来を変えるテクノロジーについて考える第 1 回学生ワークショップ Technology for the Future をオンライン開催します。日印交流プログラムに参加した日本およびインドの学生が留学先での研究成果を発表します。

また、日印のソーシャルビジネス起業家を講演者に招き、社会と未来を変えるテクノロジーについて考えます。学生の方はもちろん、起業やソーシャルビジネスに興味のある方など、様々な分野の方々のご参加をお待ちしております。

【日 時】 2020 年 9 月 25 日 (金) 13:00-16:15

【言 語】 英語 (日本語同時通訳あり)

【参加費】 無料 (要事前登録、定員 100 名)

【参加大学】 北海道大学、岐阜大学、インド技術科学大学ピラニ校、インド工科大学ムンバイ校、インド工科大学マドラス校、インド工科大学グワハティ校、広島大学

【プログラム】

13:00	開会挨拶 来賓挨拶	梶 真一、理事・副学長 (学術・社会連携担当) B.Shyam、在大阪・神戸インド総領事館 総領事 Souvik Bhattacharyya、ビルラ技術科学大学ピラニ校 総長
13:15	公開講演 I	Neha Juneja、Greenway 共同創設者 <a href="https://www.greenwayappliances.com/">https://www.greenwayappliances.com/</a>
14:05	学生発表①	インド工科大学ムンバイ校
14:10	学生発表②	ビルラ技術科学大学ピラニ校
14:15	学生発表③	インド工科大学マドラス校
14:20	学生発表④	インド工科大学グワハティ校
14:25	休憩	
14:35	公開講演 II	遠藤 謙、株式会社 Xiborg 代表取締役 <a href="https://xiborg.jp/">https://xiborg.jp/</a>
15:25	学生発表⑤	広島大学
15:30	学生発表⑥	北海道大学
15:35	学生発表⑦	岐阜大学
15:40	総評	Usha Dixit、在日インド大使館 科学参事官 西川 裕治、JST SSP 交流事業推進室 国際連携アドバイザー 牧野 恵美、広島大学 アントレプレナー教育部門 准教授
16:10	閉会挨拶	Swati Patankar、インド工科大学ムンバイ校国際担当副学長 藤原章正、広島大学 副学長 (学術院担当)

【お問い合わせ先】

広島大学 ILDP事務室  
 Tel&Fax: 082-424-6954  
 E-mail: [ildp-program@office.hiroshima-u.ac.jp](mailto:ildp-program@office.hiroshima-u.ac.jp)

成功する  
テクノロジーには、  
体温がある。

参加費  
無料

広島大学 大学の世界展開力強化事業〈インド〉  
「先端技術を社会実装するイノベーション人材養成のための国際リンケージ型学位プログラム」  
第1回日印交流プログラム学生ワークショップ〔オンライン〕

# TECHNOLOGIES for the FUTURE

プ  
ロ  
グ  
ラ  
ム

公開講演I

「社会課題を解決する  
ビジネスの立ち上げと展開」



ネハ ジュネジャ

Ms. Neha Juneja

社会起業家 / Greenway Gramen Infra Pvt Ltd 共同創設者  
インドで環境や人体への影響に配慮した  
革新的な調理コンロを開発、発売。「Forbes India」で紹介され、  
L'Oreal Paris Femina Women Award  
for Science and Innovation 受賞。

公開講演II

「インドでの安価な  
義足技術の開発と普及」



遠藤 謙

Dr. Ken Endo

義足エンジニア / 株式会社 Xiborg 代表取締役  
1千万人が義足を必要とするインドで、  
実用的な義足の開発に取り組む。  
MITの35才以下のイノベータ35人に出選され、  
NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」ほか多数メディアに出演。

各大学プログラム参加学生の発表

北海道大学、岐阜大学、広島大学、ヒルラ技術科学大学ピラニ校、インド工科大学ムンバイ校、インド工科大学グワハティ校、インド工科大学マドラス校

2020 9/25 FRI 13:00 ▶ 16:15 [JST]  
オンラインでのワークショップ  
<https://ildp.hiroshima-u.ac.jp/stw2020/>

広島大学

使用言語: 英語  
(日本語の同時通訳あり)

定員 100名

事前の参加申し込みが必要です  
〔QRコードまたはURLから登録〕

お問い合わせ = 広島大学 国際リンケージ型学位プログラム ILDP 事務室 E-mail: ildp-program@office.hiroshima-u.ac.jp TEL: 082-424-6954



**FREE  
of  
CHARGE**

JAPAN – INDIA Inter-University Exchange Project  
Online Student Workshop on

# TECHNOLOGIES *for* the FUTURE

PROGRAM

## Keynote Lecture #1

**“Starting and scaling  
a social enterprise”**



**Ms. Neha Juneja**

Co-founder,  
Greenway Grameen Infra Pvt Ltd

Ms. Juneja is the co-founder of a social enterprise and India's largest manufacturer and distributor of clean cookstoves. Awarded the Elle Impact Award in 2016, the L'Oreal Award for Science & Innovation and the Businessworld Young Entrepreneur.

## Keynote Lecture #2

**“Development and dissemination of  
affordable prosthetic technology in India”**



**Dr. Ken Endo**

CEO, Xiborg Inc.

Dr. Endo works on the technology that rehabilitates and augments human physical capability, such as prostheses and orthoses. His team is now developing an athletic prosthesis with a goal of a gold medal in the 100m/200m sprint at the Tokyo Paralympic in 2021. Chosen for World Economic Forum's Young Global Leaders 2014 and MIT Technology Review's list of top innovators under 35.

## Student Presentations

Hokkaido University, Gifu University, Hiroshima University, BITS Pilani, IIT Bombay, IIT Guwahati, and IIT Madras

2020 **9/25** FRI



**13:00 ▶ 16:15** [JST]

Method: Online conference system (Zoom)

<https://ildp.hiroshima-u.ac.jp/en/stw2020/>

**Language: English** (Simultaneous interpretation)

**Pre-registration is required  
using the above URL or QR code**



Contact: International Linkage Degree Program, Hiroshima University E-mail: [ildp-program@office.hiroshima-u.ac.jp](mailto:ildp-program@office.hiroshima-u.ac.jp) TEL: 082-424-6954